

2017年度(平成29年度)学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番27	福山市立駅家南中学校
最終更新日		2017年(平成29年)10月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○家庭教育に疑問を感じるところがあるのでPTA中心に取り組んで欲しい。 ○駅家に愛着を持つという子供像の実現に向けた取組も期待したい。 ○不登校の児童生徒の割合が多いことが気になる。	児童生徒の現状 ○地域行事に参加したり、住んでいる地域が好きな児童生徒の割合は高い。 ○友達の前で自分の意見や考えを発表することが得意な児童生徒の割合が低い。 ○話し合う活動はできているが、自分と異なる意見や少数意見の良さを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合いまとめている児童生徒の割合が低い。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	コミュニケーション力 協調性・思いやり 駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒 話す・書く(アウトプット)場面を意図的に設定した授業を行う 協調性・思いやりの育成に視点を置いたふるさと学習を積み上げる 駅家南中学校区スタンダードで生活習慣・家庭学習を定着させる
--	---	---	--

III 自校

ミッション 未来・地域から預かった生徒が、故郷に愛着と誇りを持ち、自立して社会に貢献できるよう、励ましながら鍛える。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	問題解決力 コミュニケーション力 協調性 リーダーシップ				
学校教育目標 自立して 社会に貢献できる 生徒の育成		問題解決	コミュニケーション	協調性	リーダーシップ	
現状 <生徒> ・授業で友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりする生徒の割合は高い。 ・理由を明らかにして、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができている生徒の割合は低い。 ・課題意識をもって授業を受けている生徒の割合が低い。 <授業> 教師が一方向的に教え込み、生徒は静かに板書するという「講義調」だけの授業から、習得させた知識や技能を活用して、設定した課題を解決するために思考させる場面を意識して授業に取り入れようと試行錯誤している。	研究 教科等 主題・内容等	1年	多様な視点から物事を考えることができる	自分の考えや思いを理由を明確にして伝えることができる	相手の立場が尊重できる	与えられた自らの役割を果たすことができる
		2年	自ら課題を発見し課題解決のための自分の考えを持つことができる	事実と意見を区別して相手に分かりやすく伝えることができる	互に関わりながら相手の立場を考えた行動ができる	自己の役割を自覚して責任を果たすことができる
		3年	望ましい解決策を導き出すことができる	自分の考えや思いを論理的に相手に分かりやすく伝えることができる	互に関わりながらその場に応じた行動ができる	率先して集団や社会の中で役割を果たすことができる
		道徳 自ら考え学ぶ授業の創造 ～生徒の学びを促す“しかけ”の工夫を通して～				
		めざす授業の姿 先生は単元のねらいを明確に持ち、知識・技能をしっかりと教えている 生徒は課題意識をもってじっくり考え、はっきり表現している				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家南中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力/セ/達/成/評/価	力/セ/達/成/評/価	改善方策	□指標に係る取組状況	◎短期(中期)経営目標の達成状況	力/セ/達/成/評/価	総合評価	改善方策
	全国学力・学習状況調査の平均正答率における全国平均以上の項目数を 4/4 とする。			基礎・基本の定着と思考力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 単元構成(学びの地図)を学期に1回作成する。 定期試験に活用問題・記述問題を出题する。 家庭学習の充実を図る。 	学びの地図100%達成 出題率100% 復習のための自主ノートの提出率80%	作成率100% 出題率96% 1年 93% 2年 96% 3年 90%	3	3	評価指標についてはほぼ達成 今後も取り組みを続けるとともに学びの地図を活用した効果的な授業づくりを進める					
	体力・運動能力調査における県平均以上の項目数を 48/48 とする。			体力向上の持続(昨年度36/48の項目で県平均を上回った)と向上	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業の中で、弱点に特化したトレーニング及び補強運動を継続して行う。 	全国平均を上回る項目を36/48以上に にする。	全国平均を上回る項目 41/48	4	4	今回の測定結果において県平均を越えていない種目に対する補強運動等を行う。					
	駅家南中学校区スタンダード「5つの約束」の達成率を 90%以上とする。			基本的な生活習慣と規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教職員による指導と生徒会活動を連動させる。 	すすんで挨拶80% 時間95% 身だしなみ95% 掃除80% 家庭学習80%	挨拶 83.3% 時間 83.3% 身だしなみ86.5% 掃除 70% 家庭学習66.6%	3	2	すすんで挨拶のみ目標達成 自主ノートなど日々の取り組みをさらに進める。					
	自分が住んでいる地域が好きな児童生徒を 85%以上にする			地域との積極的な連携	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと学習に計画的に取り組む。 学校だよりやHP等で情報を発信する。 	ふるさと学習の計画の活用実施率80% 「自分の住んでいる地域のことが好きです」80%	実施率 33.3% 「今住んでいる地域が好き」と回答した生徒80.8%	2	2	生徒の意識は目標を超えている 教職員の取組意識を高めて今後の実施率を向上させる。					

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。